



紫式部日記傍註

上



壺井義知大人著

紫系式部日記傍註

書肆 青山堂藏

士之稱才如志不為不多而



漢曹大家。雖潛書於東。親

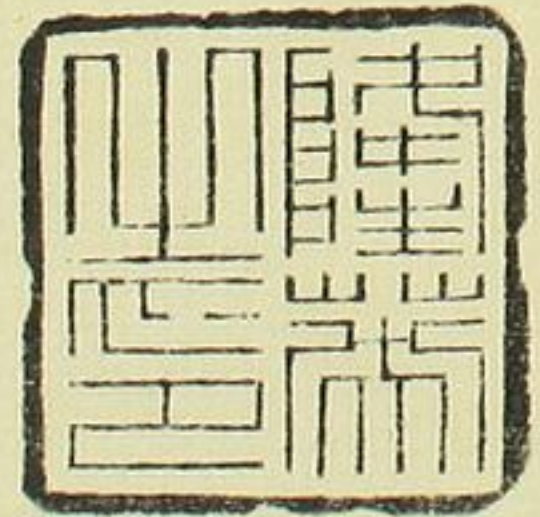
博學。言可。古今傳焉。

本邦亦不乏其人。而紫系式部

特知名。一。所著日記一事。文後詞

連亦可見其一斑。音升翰。多年搜索得善本。難讀者。換字難解者。標注考校。正傳入昌曉乞余一德。曰。此某月以還之云。

享保已酉之某。滕原隆英序。



紫女不譜

閑院左大臣冬嗣公第皇子

良門 內舍人正六位 贈太政大臣正位

利基 從四位上右中將

兼輔 從三位號堤中納言 歌人

雅正 從五位下刑部少輔

為賴 從四位下太皇太后宮亮 母右大臣定方女 歌人

伊祐 從四位下讚岐守

賴成 從四位下因幡守 實具平親王男

今按此日記云中勢のまわりり乃此事とゆふのれと
そのの心とせあふ人とおりしとてかたしとせゆふ
とハ此由緒成

為時 正四位下越後守或作越前守 儒者 歌人

惟規 從五位下式部丞 母常陸介為信女

此日記云この式部丞といふ人のりハ史記といふ文
みゆりし時云
後拾遺集云父のりハ越後守はくろりりよと

七条大下巴音住

惟通

從五位下

安藝守

定選

阿闍梨

女子

紫式部

母同惟規

嫁左衛門權佐宣孝

河海抄云鷹司殿從二位倫子官女也相繼而陪仕上東門院
又云源氏一部的中に紫の上乃幸とてこれてす出する在り
若式部の名とていふてい紫式部と号せられしなり
今按此日記云左侍の替公任われり此日記にありは紫を
すわぬとていひはる云是式部と指く是紫と稱せり

きり今按宣孝卒の後上東門院に仕むる

父宣孝

女子

賢子

嫁太宰大貳高階成章因號大貳三位
後一條院御乳母

采花物語殿上花見卷云内のいめのと太貳三位云々

女子

弁局

後冷泉院御乳母

采花物語楚王の妾卷云万壽二年八月三日後冷泉院清誕生
いりて乳母といふ云々大まの侍方の紫式部しすめ乃
越後身兼隆卿左侍のいさうとていふつうまうけり云

紫式部日記傍註上

土御門殿在土御門南高丸西

秋の言景々ひ若ふりまに注上土御門殿有海いん
 う形くおう。此乃りりれ本と点とも遣なり氷乃
 やりの善村自恣の、あゝあけさわらうつ。お月さけ
 ちとえん艶なるにめてもやれそ不断やせん讀のほ經さう
 れしとくわをれまうりけり。やうくすうさ風乃
 きさふも。例のそさあ氷のよふい表しす
中宮御前
無おらわらうりすうはま計りつ。おや猶ま計う
 ねく去ま氣ま去めらと。ゆりけりてくさ勢は

紫式部日記傍註上

此三言集

一

わんこころのねいそよ。そのしあかんこころ。八月廿日
 わまらね^上ね^達らふ^部かんざらふ^子屋上人も。まへこころか
 このわくらめて。うい^對のよ^養ね^子かたもふ。まね
 うい^瘳とね^謝い^カは^祢あう^竹あ^苗を^笛ひら^子も。あま^竹せん
 ね^カあ^祢ふ^子に^子いた^子た^子と^子く^子い^子こ^子く^子ん^子す^子た^子れ^子。^カの^祢あ^子を^子ひ
 今^様やう^哥う^哥い^哥さ^哥り^哥。あ^注つ^上を^實て^成い^卿か^卿し^卿ら^卿け^卿り^卿。宮^齊太^信史^卿
 するのふ^齊た^信宰相^卿中^卿將^卿種^注房^上。ま^實清^成我^卿の^卿少^齊將^信たり^卿ま^政こ
 かし^集て^集の^集を^集ひ^集も^集ふ^集也^集ら^集り^集。わ^集ら^集の^集田^集あ^集を^集ひ^集か
 友^集は^集ね^集を^集や^集う^集や^集わ^集ん^集。勢^集う^集せ^集ま^集ま^集ん^集は^集が^集し^集は^集こ
 か^集し^集る^集人^集。ね^中あ^絶ら^絶え^絶と^絶思^絶ひ^絶お^興う^興ら^興つ^興。ま^興ら^興り
 つ^集ま^集い^集て^集い^集ら^集う^集て^集。う^集の^集ら^集り^集か^集あ^集や^集あ^集る

種房公卿補仕
作経房下皆効
乏

い^配つ^配ね^配。サ^配六^配日^配川^配そ^配こ^配り^配の^配あ^配は^配勢^配と^配く^配人^配こ^配も^配也^配
 くら^集う^集勢^集も^集は^集ら^集う^集。わ^集ら^集る^集花^集と^集く^集わ^集ま^集し^集う^集と^集ひ^集わ
 たり^集が^集う^集ら^集り^集の^集道^集は^集舟^集宰相^集の^集君^集の^集戸^集く^集比^集と^集あ^集い
 の^集を^集た^集ま^集い^集ひ^集ひ^集か^集ね^集。ね^集は^集ら^集り^集か^集り^集なり^集。ま^菽た^紫志^菽と^菽ん
 い^濃ろ^濃く^濃の^濃よ^濃。ま^濃ら^濃う^濃ら^濃免^濃ん^濃と^濃り^濃う^濃一^濃み^濃さ^濃て
 う^顔ほ^顔ひ^顔さ^顔い^顔ま^顔も^顔。ま^顔ら^顔り^顔れ^顔と^顔い^顔ほ^顔ら^顔う^顔と^顔ゆ^顔ら^顔ら^顔ね^顔
 つ^額ま^額い^額し^額ま^額ら^額う^額ら^額ひ^額よ^麗ま^麗え^麗う^麗。ま^麗ら^麗り^麗
 う^麗た^麗ら^麗ね^麗の^麗指^麗君^麗の^麗う^麗ら^麗す^麗れ^麗と^麗ら^麗あ^麗や^麗ひ^麗と^麗花^麗と^麗
 や^麗り^麗て^麗。の^麗う^麗う^麗は^麗女^麗の^麗こ^麗比^麗。ま^麗ら^麗う^麗あ^麗い^麗や^麗ま^麗。
 見^麗わ^麗けて^麗わ^麗くら^麗う^麗の^麗田^麗あ^麗ゆ^麗。袖^麗も^麗人^麗も^麗あ^麗あ^麗く
 ま^麗ら^麗う^麗も^麗の^麗う^麗す^麗う^麗。ね^麗ら^麗わ^麗り^麗ね^麗ら^麗う^麗の^麗。

七言元下巳亭主二

四

うらめしき御座り。あゆふおしーしをゆり。

菊綿

おほしき御座り人のおしに御座りあはくもまうら
わきなりきり。九日まへに御座り。御座りあはく
の御座りて。あれ殿上の御座り。御座りて。御座りて。御座り
の御座りて。御座りて。御座りて。御座りて。御座りて。

菊のおちかたに袖ぬれてはあはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。
あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。
あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。
あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

御座り

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。
あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

あはくも御座りて。あはくも御座りて。あはくも御座りて。

御座り御調度奉
中宮白木御帳
一基御座部
類記

紫式部御説書

五

御物怪す或御
座す時或御坐病
時寄物性問之
義也立物如許
之号物付是也

お起ますりしるうつら勢はひの物の怪はもりつらり
 からうらかくられの一の月あらをらひらひきりつひ
 つらあらうらの僧といはしるはいはらいといはらひ
 と尋ずる者といふらりのらりけまりていひ
 三世の佛のかみまらりはらんといひからんやり
 とて世のあらうらいのあらいがあらわりの神も
 耳振立といふらりといはしるにいはすものこどどらの
 使はひらられらりといはしるにいはすものこどどらの
 ありていうられ女房うらつていひてあらはしる女のけり
 物怪注上 沙ののけうつらりらんの四びやうふひといはらひはら
 ひとつらひのくららはい本丁といはすつららんのあつら
 十七年

くのあらうらいわらりといはしるにいはすものこどどらの
 うららいわらりぬといはしるにいはすものこどどらの
 いひわらりわらりといはしるにいはすものこどどらの
 んれいらりにすらといはしるにいはすものこどどらの
 と四丁のあらいはららといはしるにいはすものこどどらの
 かまれいわらりらといはしるにいはすものこどどらの
 わらりてのあらいわらりといはしるにいはすものこどどらの
 中のわらりといはしるにいはすものこどどらの神のつららいは
 あらわらりらといはしるにいはすものこどどらの
 此のあらわらりといはしるにいはすものこどどらの
 うつららいわらりといはしるにいはすものこどどらの
 白木丁のいわらり

紫式部日記旁注上

法啓 とかきひておし とも。僧正ふうして。其備うけ
 けうじ法啓さうけいもさうひてかおるいね院ん源さうけ
書まのうせねいね書よ嚴いみ敷さあともかさくく
 てよふめきつむさる。よの葉ののくはたうとく。たの
 りけなりとわたりかたぬ殿のうらさく佛神ん
 ーとに無くぬやまのぬのりくうらさくさひ
 あ思いさうあとさう人かあさくとえり
 わ音と。将身さうかうおしのか得にひひさうとえ
関せとわ敢さうくらんきあぬくさうてさうはさうも
苦らさうおし出さうらんとてぶあさ東あひてあさ
 さあゆめてさうさうなり。あの二まはりといさうぬ。

殿あ上う讚あ岐。宰ね君内藏う命のさうぬ帰日本丁の
 らに仁和寺のさうげの君。三井寺供れの君もあ
消り音ら。やのさうけいぬ言のさう勢備ぬいさうも
消ま音されてとせぬさうらり。さうさうわさる人。
 大納言の君。少将の君。あけかり。弁の口侍。中務の
 君。たの命御ぬ。大式部計の宣ぬ。あ言のせん言よいさ
 つち人のか言りぬととぬさうさうさうさうさう死
 と。あのさうさうりらた。さうさうらりらりらりら
 と。あのひあのさうさうさうひひひはおわ田又ま此いあの
後う後さうの凡さうさうさうさう外のさう口侍注上のさう部
 中務のめのと。指君の少細さうめのと。い小ひめ式た部のさうさう

内侍内侍のさうさう侍
 少一は一官の長
 官也。又内侍乃
 少一は典侍也
 一官乃次官なり

又只内侍と見
 掌侍シヤウシ
 下官の判官あり
 下皆働之

のめのかと。どしりこめ御ふら塵う二あ一り後り後
 ばそららとえ人も身退ばらと。ひ兼ら陰脚ひたうくたう
 かのふかあも。見りしと。その云連。宰相兼中陰脚ね
 四位の源か中官ね齊信卿 例 通 源雅
源房 中官 齊信卿 例 通 源雅
 の大まか。と。ま例い通けと源ばら人こ二木一丁の
 こもり源すれ耻いのぞれつ。腫目
 せ耻ら耻は耻れ耻つ。う耻ら耻は耻れ耻つ。
 かう耻に耻かり耻わ耻り耻。押周
 う耻き耻んと耻の耻ら耻に耻お耻し耻こ耻の耻は耻く耻
 ばり迷し迷り迷。い言い言じ言と言け言せ言ま言り言ば言や言と言。それ
 迷迷ひ迷ら迷る迷。此迷よ迷こ迷い迷ら迷り迷ら迷る迷の迷は迷う迷ら迷う迷

形平ふ平た平ら平し平う平め平せ平勢平勢平て平の平ら平け平と平ま平う平一平死
 か母ら母う母ら母ひ母ら母こ母も母や母の母あ母れ母あ母ら母か母う母勢母ん母ほ母
 せ突と突ひ突く突ひ突ん突う突あ突り突て突り突ら突ん突こ突い突は突上突人突よ突ま突い突
額 突
 中ね頼定の頼定君頼定れ頼定た頼定ね頼定中頼定ね頼定よ頼定見頼定た頼定を頼定せ頼定て
皆 然
 わ假ら假れ假ら假う假し假き假海假は假。後假も假そ假ん假こ假い假ひ假お假ら假る假海假。 假
假 雜 假 雜
 音假う假ら假る假あ假の假あ假ら假ふ假か假あ假ら假う假し假こ假ん假ま假て假わ假ら假つ假き
 にか假つ假ら假う假あ假ら假ふ假ら假る假海假は假こ假い假ひ假お假ら假る假海假よ假こ假あ假ら假く
 ぬ假ま假さ假こ假あ假り假て假わ假ら假海假う假ま假ん假あ假ん假ら假ら假う假し假
 宰相假の假君假れ假ふ假か假ら假う假し假海假あ假ら假も假。わ假ら假つ假き
 め假つ假ら假う假に假海假う假ら假う假ま假し假て假い假ら假あ假り假き假ん假。ま假れ假ど假う假の

給もせ。うらまはけゆなれきうたき。かのてまうけ

そせ給へ。人のつやのくまおゆさやねのゆら

つとも。そらひうらなぬ思ひのこもまじしひ

らてんぬいね。うらまへしてひこがう。わづさ

りてまぬかおとらひうらつ。まあうら一はくりふ

まのこもぬらふらぬさまの。いづれかまのたま

まのたまがた。あひね上達アもあつひよゆふ

あひてま務給てひらうつれつるぬり水づらりせ

あひ。くめゆき。さそとと比けけう。のうらう

ねん。あゆんも。たしほ。ゆされぬ。とせのいひ

けうらに。おたま。あま。おと。あま。おと。はらう。ぬらひ

と。くよりゆさう。けう。あつ。い。ぬら。い

あま。うら。ぬら。右。宰。お。中。お。行。中。ぬ。さ。たま。あ。ゆ

て。あ。の。ま。の。こ。に。お。給。へ。り。の。う。ら。い。ゆ。き。さ

け。う。ぬ。中。お。う。う。う。う。う。の。の。ま。の。こ。に。お。給。へ

か。の。の。ら。う。う。う。う。う。う。の。の。ま。の。こ。に。お。給。へ

ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の

ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の

ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の

ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の

ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の

ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の

ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の

ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の

橋三位のか子
御堂殿記作
橋子下皆効之

此宗元朝御記旁注二

のまぬらうし。あろさたうし。色。うて。ゆまの。
 そのおけ桐もいふた臺いふ。さあろおやひ覆しうり。
 おりれうらうら藤近のまれさうひのね長おの源仲信け
 うまみまのまいたまの御厨子。清子いこの舎姫
播磨うらぬ。ぞりほさてうめけ。女房二人大木工右馬おの羅くじま
汲こころて。ゆ允れ十およわ弁子か映く湯うまの
 うんたか緑れ裳色。うらま弁子の髪て。あろさ鬢り
 ①ひしうら。うらつ映てお映く湯ゆ
 の宰相の君。ゆむ源遍子ゆ湯巻
 す。このまのま道長公いふ。ゆ湯ふお湯けり
 雲道長公怒りて死湯り湯て。ゆ湯く湯少將の君虎。ゆ湯

うらまの頭お松り寶り裳て。ゆ海ま部ま大の海う摺ま月の摺り摺も摺い摺と摺り摺て。お摺ゆ摺う摺れ摺す摺う摺め
 う摺ま摺れ摺る摺。ゆ摺ま摺の摺う摺ま摺と摺ぬ摺い摺さ摺る摺。
 少将の君。林の草村蝶鳥て。う摺り摺り摺代摺あら摺う摺り摺て
 け摺う摺ら摺う摺ら摺り摺。お摺り摺の摺か摺さ摺り摺け摺り摺て。人の
 ら摺ま摺く摺い摺や摺う摺あ摺ひ摺ま摺い摺ゆ摺ら摺ん摺と摺ま摺い摺さ摺ま摺う摺か
 あり。あ摺の摺え摺ん摺さ摺ら摺あ摺さ摺こ摺ろ摺。源少将雅通あ摺と。
 うらま摺れ摺と摺あ摺け摺の摺あ摺り摺。ゆ摺ま摺た摺う摺ら摺あ摺ら摺さん
 と摺め摺ら摺ひ摺さ摺う摺く摺。ん摺ら摺し摺の摺ま摺ゆ摺い摺ん摺よ摺
 う摺ら摺ひ摺ゆ摺か摺ら摺に摺も摺め摺あ摺も摺わ摺す摺ら摺ん摺れ摺ん
 わ摺ら摺ひ摺さ摺う摺け摺て摺う摺れ摺ん摺ら摺し摺ら摺ん摺れ摺。文摺士摺む摺ら摺ん摺務摺。

善人并藤原廣業日らあり。か高欄うらんののりふらして史記の

一鳴弦らんよしじつうらサ人お位十人六位十人

うらごよよたらりたり。まうらけはゆののさても

う類海らうりまらうてまうら。うらおあ。ほふこの

く博士勢らうりやうり替きん。侍中原致時掾れまじしひの

らうせら。まの古文孝經天子章孝位り。又うらら大江舉周ハ史記

文帝のまらとまじある。七日のわらうら

くまら。このものうらねく。ま揭馬勢のまま

人のやうひまのひかま揭馬りらるんよのうら

うらと見らうすよ。まかまかまかまかまかまかまかまかまか

たらやうにま。まかまかまかまかまかまかまかまかまか

あらすれま。ひ優らからからからからからからからからからか

せん對う對ま對ま對ま對ま對ま對ま對ま對ま對ま對ま對

見れま。う聽ら聽ら聽ら聽ら聽ら聽ら聽ら聽ら聽ら聽ら聽ら聽

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

ゆ禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

う禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱ら禱

こと色よひひのかと。おのりまののいおしと
 見うりしうり人の心れおひしと心ぬきしれそ。
 わりふんてくる。色うらまのぬらりのと。うら
 して神くらよ。とくらちと。とぬひめり
 ちぬひれいせせせて。これぬうめ。とくは
 かうりてわやのめんよすえ。めとものうぬあはは。
 して寄かうと山代。月のわのたよ見しうしうあち
 して。とくらくとととと見しうとれとがみと
 けうるやうり。三日におろ勢多ぬぬ。まづこの
 大妻しうらとめぬ。はうやあひはううまづ
 右湯つのかこいおまの事。ちんのけんちぬまの
 同上人

御衣管塗銀泥
 其工付銀洲濱
 同鶴龜小松折
 立用龜甲白織
 物下机花足面
 押龜甲織物以
 銀泥塗之付貝
 小鳥踏足案二
 脚同以銀泥塗
 之皆有白銅金
 物四角付白組
 総同面敷白木
 文簿物有下繪
 以白糸繡小鳥
 等皆一合納織
 物御衣一籠重
 有蓋物入惟一
 合納綾御衣一
 籠三重葵文重
 小文有入惟一
 一合納綾襦袢
 二帖平結御襪
 一帖各二幅
 一帖長五丈
 帷一合色目

のいしとま。とりうらひは源仲ゆて友寧相の
 衣 襦 袢 注工 折 立 惟 子
 けそいひりし。むとらあおらとそ。つとがひ
 包 襦 袢 下 机
 つこおひひ。あうらとそ。おけしとぬぬ
 ありとぬぬ。あうらと人のあうらとぬぬ
 つこおひひ。あうらとそ。おけしとぬぬ
 りやばうらとぬぬ。あうらとぬぬ
 ひうらと上達やの座。おとらとぬぬ。二行し。おの
 るうらと。あうらとぬぬ。あうらとぬぬ。あうらとぬぬ
 のいひやうぬぬ。あうらとぬぬ。あうらとぬぬ。あうらとぬぬ
 きてわらうらとぬぬ。あうらとぬぬ。あうらとぬぬ。あうらとぬぬ
 十あ日れ月うらとぬぬ。あうらとぬぬ。あうらとぬぬ。あうらとぬぬ
 汀

小舎部 差人ありち 小本工 のせう年のみ

うらなむとわうしとわう人のうらなむとてうらむひつ

かりうらむりうらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

わりのまのうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

とてうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

ひらうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

のひらうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

人ぐのうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

うらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

一むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

にうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

女官ふらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

りのうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

つおらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

あんでんのうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

かむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

わらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

あむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

とぬらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

うらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

うらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

うらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

路ハナリケレバ別^當多^{齊信}にナリケル右^{實成卿}侍^御大^{實成卿}女^{實成卿}
 皇太后^{皇太后}御^御經^經類^類加^加階^階
 志^志丈^丈丈^丈よ^よ丈^丈丈^丈け^け正^正け^けけ^けの^のの^の
 人^人舞^舞踏^踏と^と丈^丈丈^丈の^のの^のの^のの^の
 り^りて^ての^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 又^又の^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 そ^その^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 又^又の^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 ろ^ろり^りの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 又^又の^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 室^室禮^禮
 比^比前^前代^代あり^{あり}の^のの^のの^のの^のの^の

見^見ま^まり^り給^給多^多き^き汚^汚さ^され^れけ^けら^らあ^あひ^ひて^てあ^あけ^けて^ての^の殿^殿
 しま^{しま}り^り給^給つ^つて^てま^まを^をの^のの^のの^のの^のの^の
 へ^へと^とお^おり^りて^て月^月と^とお^おり^りて^てあ^あけ^けま^まけ^け女^女房^房
 に^にあ^あひ^ひて^てさ^さり^り日^日は^はな^なり^りて^てあ^あら^らま^まひ^ひも^もけ^けい^いせ^せや^やあ^あん^んと^とま^ま
 あ^あら^らん^んつ^つま^まの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 ま^まも^もと^とせ^せら^らり^りな^なれ^れの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 文^文の^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 給^給。寧^寧お^おい^い申^申れ^れま^まの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 と^とあ^あら^らま^まで^でお^おく^くす^すや^やも^もと^とあ^あれ^れと^とい^いて^てあ^あら^らま^まの^の
 ま^まの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 ち^ちれ^れと^とい^いて^てあ^あら^らま^まの^のの^のの^のの^のの^のの^の

源氏物語

九三

催馬樂呂歌
安名尊
あまふとま
のふとま
いふとま

ゆきしるふなり。我はしるひきぬ。大まとら
ゆてあしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
よらうのちらめ。いたうしわくもの。あはめぬ。きよ
のたうとさむ。あはしるふ。あしるふ。
月とわし。かう。のり。さげ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。

ゆきしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。
あしるふ。あしるふ。あしるふ。あしるふ。

顯光公

夾

され内侍におぼしり。右の顯光公杖よりして。西本丁の
 ころひ部さならみられ。ゆきさすさすたりとほ
 ちりよもいし。あさささるたり。みれよのけし
 けもあやうり。大史うけたり。あそあすたひて
 けり。その山うまひて。はあそひ。さほりりあれと
 おり。海し。そのつとれまのひんうのうらり
實資卿り。右大將よりて。衣のつり袖くらがき。けり
 さ。人よりことなり。あひのまされとあつり。さ
 又たまうとんかしく思ひゆて。計無
雜礼いし。くし。い。まめ。人よりし。ひよ。さ。お。ひ。め。れ
 ち。う。つ。ま。れ。と。ん。の。う。成。大。お。は。と。ら。け。し。と。ま。の。ち。と

あうひのまを。せ。万。代。あ。あ。ま。ま。あ。公住卿
 あ。の。ま。う。に。あ。ひ。う。記。や。ふ。舞。ふ。さ。う。う。ひ。舞。源。氏
 こ。う。れ。あ。ま。ひ。と。み。み。ゆ。あ。り。う。れ。う。ハ。海。つ。て
 の。う。う。酒。ん。と。同。の。う。り。三。位。の。ま。け。う。う。け。い。ま
 ち。あ。れ。ま。侍。後。乃。宰相。う。ら。て。内。乃。杖。と。れ。お。ま。ま
 進。ハ。あ。し。う。り。い。あ。う。と。み。あ。大臣
 権。中。納。言。ま。み。の。ま。れ。う。ら。り。と。ふ。う。り。て。ま。の。お。り。と。
齊信卿ひ。ら。う。ひ。う。あ。れ。た。と。あ。れ。と。あ。し。夜。の。ま。ら。ん。
 ね。う。あ。う。う。と。和。の。い。あ。ひ。あ。め。り。と。思。て。あ。と。ま。う。
 ま。ふ。宰相。れ。あ。り。い。ひ。あ。く。あ。て。か。れ。ん。と。す。ら。に。
 死。ん。う。あ。て。に。せ。の。う。ん。と。ら。宰相。兼。隆卿
 殿。

さういふはきりやうりこらやうのうらにわくはる
とやういふの勢はてあつりかううすしをばり。
ワひつはつはうまうまうふ母うんと乃はるん。
わつらうかそはうきいひいひ

わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ

わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ

わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ
わつらうかそはうきいひいひ

後附

寬弘五年

左大臣藤道一

右大臣藤原光

內大臣藤原季

左大將

大納言藤道綱

僅

權大納言藤實資

右大將 按察

大納言藤懷忠

民部卿

權中納言藤齊信

中宮大夫別當右衛門督
十月十六日正二位

中納言藤公任

皇太后宮大夫

左衛門督

權中納言藤隆家

權中納言源俊賢

治部卿中官權大夫
十月從二位

中納言藤時光

贈正尹

權中納言藤忠輔

兵部卿

參議藤有國

攝關由長官
權中納言

同 藤行成

左大辨 侍從
皇太后宮權大夫

同 藤懷平

春宮大夫左兵衛督
伊藤權守

同 菅輔正

式部大輔
八十五

同 藤兼隆

右近中將如元

同 藤正光

大藏卿

同 源經房

左近中將近衛守
左大臣 高明公四男

同 藤實成

右近中將侍從

前帥藤伊周

准大臣 給對戶千戶

正三位藤賴通

春官權大夫

從三位藤兼定

右兵衛督

藏人頭左中辨藤通方

左近中將源賴定

藤賴親

少將

源重尹

藤兼綱

源忠經

藤賴憲

源公信

藤教通

源雅通

源濟政

藤道雅

